

「令和3年度 学校に関するアンケート」結果と分析

1. 実施について

- (1)実施時期 令和3年12月7日～12月17日
- (2)実施方法 アンケート調査(保護者15項目、教員24項目、行政12項目)
- ①一斉メール配信システム「eメッセージ」によるアンケート配信・自動集計
- ②事前にアンケートを取り、必要な方は紙媒体(プリント)で配付・回収
- ※昨年度は保護者14項目、教職員24項目、行政11項目であったが、それぞれ1つずつ新設の項目を追加した。
- (3)回答項目 「Aよくあてはまる Bあてはまる Cあまりあてはまらない Dまったくあてはまらない Eわからない」の5項目
- (4)回収率 保護者 80%(+3ポイント)
- 内訳: 小88%、中86%、高69%
- 教職員 99%(±0ポイント)
- 内訳: 小100%、中100%、高98%、行政100%
- (5)分析方法 回答中ABを肯定的な意見、CDを否定的な意見として分析した。

2. 概要

保護者対象のアンケートでは、今年度は15項目で実施した。14項目に関しては昨年度と同様の内容で行った。回収率については昨年度の77%に比べると3ポイント増加した。回答結果については、肯定的意見が90%以上の項目が5項目あった(昨年度より2項目減)。新設「学校は、地域とのつながりや交流の機会を設定している」の項目以外で、5%以上の増減は見られなかった。なお、保護者全体の「肯定的評価」の全体平均は、83.65%である。

教員対象のアンケートでは、今年度合計24項目となっている。回収率は、全体としては99%と昨年度と同様である。回答結果については、大きく変化の見られた項目(+5ポイント以上)が1項目あった。なお、「行政対象」のアンケートは、「教職員対象」を「教員」と「行政」に分けた12項目で実施し、教職員全体として合算している(これまで行政の回答の多くは「E:わからない」を占めており、「行政対象」の12項目を作成。項目の内容は「教員対象」と同じ)。教員・行政のアンケート項目に、それぞれ「学年・学部・分掌において、業務の効率化や平準化を行っている」を今年度より設けている(質問番号 教員:15、行政:12)。教職員全体の「肯定的評価」の全体平均は、74.8%であった。

3. 結果と分析

☆以下の文書中「○%」については、注釈がなければ各項目の肯定的意見の割合(回答A+B%)となる。また「±□ポイント」は、昨年度と比較した数字になる(例:昨年度80%→今年度83%の場合、+3ポイント)。

(1)学校に対する意識に関するもの

保護者は「1:子どもは、学校に行くことを楽しみにしている」「3:教職員は、子どもの障がいについて、よく理解している」の項目で、それぞれ、83%(−1ポイント)、91%(−1ポイント)と、昨年度と比べると減少している。さらに、児童生徒や保護者の願いに応えられるよう取り組んでいく。

(2)学習指導・教育活動に関するもの

保護者対象のアンケート項目「4:子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている(感じている)」は、77%と−2ポイントとなった。また、同項目で「わからない」と回答している保護者が15%(昨年度より+2ポイント)おられることから、分かる・楽しい授業になるよう授業力や専門性の向上を引き続き図るとともに、お子様の授業の様子を知っていただき、学校と家庭と共有できる取り組みがさらに必要であると考えられる。

教職員の「10:教員間で授業見学をし、授業方法等について検討する機会がある。」に関しては、56%(+6ポイント)であった。なお、アンケートは12月に実施しているが、全校での取り組みである「公

開授業週間」が毎年1月末に行われている。また、教員間で授業を観ることができるよう、授業の様子を動画で撮ったものを、全教職員が観られるようにしている。しかしながら教職員の実感としては、半数程度に留まっている。「授業方法等について検討する」機会として、経験年数の少ない教職員の授業力や専門性向上にも大きく関わってくるところであるため、今後も引き続き授業見学・授業方法等の検討の機会の有り方について検討していく。

(3) 生徒指導に関するもの

「2: 学校の児童生徒指導の方針に共感できる」について、保護者からは約90%(-2ポイント)と一定の評価をいただいている。また、「3: 教職員は、子どもの障がいについて、よく理解している」「8: 教職員は、日常の教育活動において、子どもの人権を十分に尊重している」という項目では、91%(-1ポイント)、89%(-3ポイント)となっている。研修等を通して更なる障がい理解と、障がいを理解した上での教職員の実践・言動の見直しを徹底していき、継続できるように努めていく。

(4) 進路指導に関するもの

保護者対象の項目「9: 学校は子どもの将来の進路や職業などについて、発達段階や実態に応じて適切な指導や助言を行っている」では、全体で77%と昨年度より+1ポイントとなっている。内訳を見ると、小学部 69%(+2ポイント)、中学部 76%(±0ポイント)、高等部88%(±0ポイント)と学部が上がれば肯定的意見が増加しており、これは、進路・職業などを直接経験することが要因と考えられる。下学部においても、知ることができる・わかるという機会の設定が必要と考えられる。合わせて、引き続き各学部で発達段階に応じた進路指導、説明・共通理解をはかっていきたい。

(5) いじめに関するもの

保護者対象「10: 学校は、いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」、教職員対象「7: いじめ(疑いを含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる」に関する項目は、保護者の結果は肯定的意見が58%(-3ポイント)。否定的意見は3%であったが、「分からない」の回答が39%(+3ポイント)であり、その他の項目と比べると、「分からない」が突出して多くなっている。

また、教職員の結果は、肯定的意見が67%(-3ポイント)、否定的意見が13%(+2ポイント)、分からないが20%(±0ポイント)である。現時点ではいじめについては確認ができていないが、今後も早期発見・早期対応に努めるとともに、保護者・教職員へは、「防止に関する取り組みや対応方法(「学校いじめ防止基本方針」)について、さらに周知を図っていく。

(6) 道徳教育・人権教育に関するもの

保護者は「7: 学校は、子どもの発達段階や実態に応じて、生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている」で肯定的意見が 84%(-4ポイント)、教職員は「9: すべての教育活動において、人権尊重の姿勢に基づいた支援・指導がおこなわれている」で肯定的意見が 82%(+1ポイント)となっている。引き続き、児童生徒への道徳教育・人権教育はもちろん、教職員が早急にそれぞれの支援・指導をさらに見直していく。全教職員で、お互いに指摘し合える同僚性を意識していくよう取り組んでいるが、教職員の「6: 教職員はカウンセリングマインドを取り入れた生活指導を行っている」では、今年度85%(3年間で+12ポイント)となっている。

(7) 情報提供に関するもの

「5: 学校は、教育情報について、提供の努力をしている」は、88%(-2ポイント)、「13: 学校は、ホームページや緊急連絡システムを通して、情報をわかりやすく発信している」では、94%(±0ポイント)と高評価を得ている(教職員も94%、±0ポイント)。

一方で、メールでの連絡が複数回に渡ることや、必要な内容がわかりにくいというご意見もいただいている。より良い情報発信や方法を心がけていく。

(8) 学校教育への保護者の参画に関するもの

「11: この学校の授業参観や学校行事等に参加したことがある」は、95%(±0ポイント)と維持しているが、「12: 学校では、PTA活動が活発に行われている」は、89%(2年間で-8ポイント)となっている。今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、学校行事・PTA活動等に関しては十分な形での実施ができていないことが影響していると考えられる。また、参画の中身については本アンケートからは十分に把握することはできない。「6: 運動会、学習発表会、学習展示会や校外学習、宿泊学習、修

学旅行などの学校行事は、子どもたちが参加しやすいよう工夫されている」では、94%(+2ポイント)と高い評価をいただいているが、「4:子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている(感じている)」の項目では「わからない」が約15%(+2ポイント)あり、授業参観等が十分に実施できなかった影響もうかがえる。次年度の授業参観や各行事については、本アンケート以外のアンケートを踏まえながら、内容等について保護者の意見も交えつつ工夫していきたい。

(9) 児童生徒理解に関するもの

保護者項目「教職員は、子どもの障がいについて、よく理解している」「運動会、学習発表会、学習展示会や校外学習、宿泊学習、修学旅行などの学校行事は、子どもたちが参加しやすいよう工夫されている」で、今年度は肯定的意見がどちらも90%以上となっている。今後も、児童生徒一人ひとりの理解に努めていく。また、必要とされる学習内容や支援を、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」等の活用と併せて、保護者や関連機関と連携して共有していく。

(10) 教育環境に関するもの

保護者項目「14:学校給食の食材や献立・給食だより・給食のブログは、配慮・工夫されている」の項目では、93%(+1ポイント)と高評価である。一方で教職員の「15:この学校では、児童生徒の教育環境が整備され、施設・設備の拡充が見通しをもって計画されている」では、41%(±0ポイント)であり依然低い。児童生徒増に対しては、教室確保のため、毎年教室調整が必要なことや、施設・設備の老朽化等も考えられる。施設設備に関しては、漏水や換気扇の落下により児童生徒への影響も大きくあった。異常が出る前に早期発見・改善ができるように、日々点検や「ヒヤリハット」の強化に努めていく。現在ある施設設備を工夫して最大限活用しながら、見通しを持って計画・適切に予算配置を進めていく。

(11) 学校組織に関するもの

教職員の「18:教育活動に必要な情報について、保護者や地域への周知に努めている」については、73%(-1ポイント)であった。一方で、教職員の「19:情報提供の手段として、学校ホームページや緊急連絡システム(メール配信システム)が活用されている」では、94%(-1ポイント)と一定維持をしている。ホームページやメールシステムの活用その他、各種たよりで情報提供を行っている。また、個別の指導計画・支援計画に関して、「21:作成」や「22:開示し、説明」というそれぞれの項目では、教職員の肯定的意見が89%(-1ポイント)、96%(+1ポイント)と90%近くを維持している。教育活動に必要な情報を十分に発信しているということも、教職員も認識してもよいのではと考えられる。また、教職員の「2:教育課程の編成にあたって、学習指導要領の趣旨が生かされている」が76(+0ポイント)、「3:教育活動にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」では、79%(+1ポイント)と、昨年度増加した分を維持している。さらに学習指導要領に沿って教育課程の改訂や自立活動の指導について見直しを進めていく。

「コンピューター等のICT機器が各教科の授業などで活用されている」が89%(2年間で+13ポイント)、「16:経験の少ない教職員が成長していけるよう校内研修等、工夫がされている」が63%(2年間で+10ポイント)となっている。現在は特にICT機器を活用する機会が増えている。一方で、全教職員が教育実践に生かせる研修等の工夫は、さらに引き続き必要である。また、2年間で増加はしているものの、学校全体として教職経験の少ない教員をバックアップしていく体制の確立も引き続き必要である。「10:教職員間で授業見学をし、授業方法等について検討する機会がある」に関しては、56%(+6ポイント)であった。教職員間で授業を観ることができるよう、授業の様子を動画で撮ったものを、全教職員が観られるようにしている。しかしながら教職員の実感としては、半数程度に留まっている。「授業方法等について検討する」機会として、経験年数の少ない教職員の授業力や専門性向上にも大きく関わってくるところであるため、今後も引き続き授業見学・授業方法等の検討の機会のあり方について検討していく。

「13:教職員の適正・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、学校経営に教職員の意向が反映されている」については、一昨年度と比べると8ポイント増加しているものの、昨年度と同様49%と低い肯定的評価となっている。この項目には、複数の要素が盛り込まれているため、評価が低い原因がどこにあるのかは、引き続き検討していく必要があり、改善に取り組んでいく。

「17:研修・研究に参加した成果を他の教職員に伝える機会が設けられている」は、60%(+3ポイント)となった。今年度も外部での研修が中止やリモートとなることが多いものの、可能な部分で共有を行った。

(11)学校組織に関する部分では、今年度も全体的に微増ではあるが肯定的意見が増加しており、コ

ロナ禍ではあるものの、その中でできることを進めることができたのではと、一定評価したい。

(12)新設の項目について

保護者新設項目「15:学校は、地域とのつながりや交流の機会を設定している」では、約63%であった。今年度も交流の機会などが中止になることが多かった。できる工夫をしつつ、推進していく。

教職員の新設項目「24:学年・学部・分掌において、業務の効率化や平準化を行っている」については、約58%であった。現在業務の効率化や平準化を進めているが、各教職員の実感まではいっていない様子である。各教職員の意見等を吸い上げながら、より働きやすい職場づくりについても進めていく。